

世評

広報

No.580

2009年(平成21年)

8.1

1975年(昭和50年)4.1創刊



おなふだ

大改修中の渡邊邸で棟札を発見

大規模改修中の国重要文化財・渡邊邸で、上棟した日付や施主・棟梁の名前、花押などが記された「棟札」が、約190年ぶりに発見されました。

発見したのは、改修作業に携わっている関川村の大工・三須真さん(下関)と渡辺浩之さん(上関)。7月2日、建物を調べていたところ、頂上の棟木といわれる太い梁に2枚重ね合わせて釘で打たれ

ていたそうです。棟札は、これまで所在が不明で、上棟日や施主などは渡邊家に伝わる文書でしか確認できませんでしたが、史料の内容が物証で裏付けられたことに関係者は喜んでます。

棟札は、歴史とみちの館で開催中の企画展「渡邊家宝物展」で展示されていますので、ぜひご覧ください。